



国際子ども図書館 の 窓

子どもの本は
世界をつなぎ、
未来を拓く！

第 19 号

2019.9

表紙デザイン：熊谷博人氏

はじめに



『国際子ども図書館の窓』第19号を皆様にお届けいたします。この号では、平成30年4月から平成31年3月までの活動を御紹介します。

この1年間は、その前年に引き続き約14万人という多くの利用者の方々に御来館いただくことができました。資料の閲覧等のほか、各種の講演会や研修等にも多くの皆様に御参加いただいています。平成27年から平成28年にかけて行った施設増改築等のリニューアル後に開始した新しいサービスや閲覧室の運営も定着しつつあります。例えば、読書離れが心配されている中高生世代を対象として、図書館での調べものの有用性や魅力を体験してもらうために、平成28年4月から開始した「調べもの体験プログラム」は、多くの学校から御関心をお寄せいただき、平成30年度には46回のプログラムを実施し、計711人の中高生の参加を得ました。皆様の御支援・御協力に心より御礼申し上げます。

国際子ども図書館では、組織の名称にもあるとおり、国際的な連携を通じてサービスを充実させ、児童書の魅力や最新の情報の発信につなげることを目指しています。毎年外国から作家や専門家をお招きして講演会等を開催したり、国際会議等への職員の派遣を行ったりしていますが、平成30年度も充実した交流の機会に恵まれた1年でした。平成30年5月には、オランダの著名な児童文学作家であり、国際児童図書評議会（IBBY）の会長（当時）でもあったワリー・デ・ドンケル氏による講演会を開催し、日本文学のファンでもある同氏の創作活動について様々な視点から語っていただきました。平成31年1月には、中国を代表する児童文学作家の一人で、2016年の国際アンデルセン賞作家賞を受賞した曹文軒氏を招へいし、水辺で生まれ育ち、作品世界の根底に常に水が流れているという同氏の人生と文学観について御講演いただきました。また、同年3月には、中国から上海少年儿童図書館の盧秋勤館長をお招きして講演会を開催し、従来の図書館のイメージにとらわれず、拡張現実（AR）、プログラミング・ロボット、ドローン等の先進技術を活用して、次々に展開される同図書館の斬新な子ども向けサービスを御紹介いただきました。一方、平成30年8月に、マレーシアのクアラルンプールで開催された国際図書館連盟（IFLA）第84回年次大会に、児童・ヤングアダルト図書館分科会常任委員を務める職員等を参加させたほか、ギリシャのアテネで8月末から9月初めにかけて開催されたIBBYの第36回世界大会にも職員を派遣し、世界の児童書・児童サービス関係者と情報を交換し、交流を深めることができました。アテネでは、日本の角野栄子氏が作家賞を受賞された国際アンデルセン賞授与式に参列する栄にも浴しました。まさに「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く！」という理念の実現に向けて、着実に取り組むことができたのではないかと思います。

『国際子ども図書館の窓』第19号は、以上を含めた昨年度の国際子ども図書館の活動を御報告するものです。「児童書専門図書館」、「子どもと本のふれあいの場」、「子どもの本のミュージアム」という3つの基本的役割を担う国際子ども図書館の幅広い活動全体を御覧いただければ嬉しく思います。

もとより不十分な点や未熟な点等もあろうかと存じますが、サービス・事業の改善のため、利用者の皆様から、多くの御意見、御感想をお寄せいただければ幸いです。

今後とも皆様の御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

令和元年9月

国立国会図書館国際子ども図書館長 寺倉 憲一

目次

【はじめに】

【活動報告】

- 1 児童書専門図書館としての活動
 - 1.1 資料・情報センターとしての機能
 - 1.2 子どもの読書活動推進支援
 - 1.3 国際的な交流活動
- 2 子どもと本のふれあいの場としての活動
 - 2.1 子どもの成長段階に応じた館内サービス
 - 2.2 子どものための連携イベント
 - 2.3 子ども向けの情報発信
- 3 子どもの本のミュージアムとしての活動
 - 3.1 館内展示
- 4 国内外の諸機関との連携・協力、広報活動等
 - 4.1 講演会
 - 4.2 展覧会
 - 4.3 広報活動
 - 4.4 関係者会議
 - 4.5 見学・案内
 - 4.6 刊行物

【平成 30 年 4 月から平成 31 年 3 月までの主なできごと】

【数字で見る国際子ども図書館】

【国際子ども図書館利用案内】

活 動 報 告

(平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月)

1. 児童書専門図書館としての活動

国際子ども図書館は、児童書の専門図書館として国内外の児童書及び関連資料を広範に収集・保存し、利用に供している。また、「[国立国会図書館国際子ども図書館 子どもの読書活動推進支援計画 2015](#)」に基づき、子どもの読書に関する情報発信、人材育成及びネットワーク構築、情報発信等を行っている。

1.1 資料・情報センターとしての機能

(1) 蔵書構築

○資料の収集

国内刊行児童書を納本制度により収集したほか、未収の国内刊行児童書（鈴木三重吉『湖水の鐘（春陽堂少年文庫）』等）、国内外の児童書関連資料、児童サービス用資料、学校図書館セット貸出用資料、主要児童雑誌の欠号等を収集した。

外国刊行児童書については、*Royal moveable Punch & Judy* (Dean & Son 出版) などを含む欧米や中国、韓国等の資料のほか、平成 29 年度に作成した選書用ブックリストに基づき、西アフリカ（フランス語公用語圏）の児童書を重点的に収集した。また、平成 30 年度はカナダ・ケベック（フランス語圏）の児童書・関連書について鈴木智子氏（ケベック児童文学研究者）に調査及び選書用ブックリストの作成を依頼した。調査報告とブックリストは国際子ども図書館ホームページで公開している（<https://www.kodomo.go.jp/info/foreign/index.html>）。また、ボローニャ国際児童図書展事務局から 2018 年ボローニャ国際児童図書賞応募作品 319 冊の寄贈を受けた。

今年度の増加数については、日本語の図書が約 8,700 点、外国語の図書が約 10,700 点、国内雑誌が約 40 タイトル、非図書資料が約 2,800 点であった。

なお、資料の破損・劣化対策として、年間 197 冊を補修した。

○資料のデジタル化と公開

児童書については、1968 年以前に刊行された国内刊行図書及び 1970 年までに刊行された国内雑誌のデジタル化がおおむね終了している。1970 年以前に刊行された国内雑誌の欠号補充分約 70 タイトル約 300 冊分を平成 29 年度にデジタル化し、平成 30 年度に公開した。

○児童用点字・大活字資料の配置

平成 28 年度に策定された国立国会図書館の資料収集方針に基づき、点字・大活字資料のうち児童用資料に該当するものを平成 29 年 4 月から国際子ども図書館に配置することとなり、同年 7 月から児童書研究資料室において新着資料の利用提供を開始した。また、これまで国立国会図書館東京本館で提供していた児童用資料（点字図書 1,226 件（2,302 冊）、大活字図書 66 件（102 冊）、点字雑誌 2 タイトル（222 冊））についても、平成 29 年 7 月から実施していた国際子ども図書館への移送作業が平成 30 年 10 月までに完了し、順次、利用提供を開始した。

(2) 情報サービス

○ホームページコンテンツのウェブアクセシビリティ対応

国際子ども図書館ホームページ上で提供している国立国会図書館キッズページについて、国立国会図書館ウェブアクセシビリティ方針に基づき改修を行い、平成 30 年 12 月 12 日に公開した。また、電子展示会「絵本ギャラリー」のうち「江戸絵本とジャポニズム」の日本語版・英語版についても、同ウェブアクセシビリ

ティ方針に基づいた改修を行い、平成 31 年 4 月に公開することとした。

※<https://www.kodomo.go.jp/kids/index.html>

※<https://www.kodomo.go.jp/gallery/edochon/index.html>

○国立国会図書館サーチにおける児童書総合目録の提供

国立国会図書館サーチを通じ、国立国会図書館（国際子ども図書館を含む。）、大阪府立中央図書館国際児童文学館、神奈川近代文学館、三康文化研究所附属三康図書館、日本近代文学館、東京都立多摩図書館、梅花女子大学図書館、白百合女子大学図書館・白百合女子大学児童文化研究センターが所蔵する児童書・関連資料の所蔵情報を検索できる児童書総合目録を提供している。平成 30 年度は、東京都立多摩図書館のデータ更新を行った。

※<https://iss.ndl.go.jp/>

○国立国会図書館検索・申込オンラインサービス（略称：国立国会図書館オンライン）への目録データ追加等

国際子ども図書館が整理したアジア諸言語の新規受入児童書資料（中国語 573 件、アラビア語 19 件、タイ語 29 件、ヘブライ語 17 件、ペルシャ語 60 件）の目録データを追加した。また、カード目録等から遡及入力した簡易な目録データ 3,452 件（35 か国、37 言語）について、平成 29 年度から開始したデータ整備が平成 30 年度に完了した。これにより、カード目録のみで提供していた資料はすべて国立国会図書館オンライン上で検索・利用できるようになった。

児童書専門付加情報として、日本児童図書出版協会から提供された『児童図書総目録』の内容解説データ 2,114 件を投入した。

※<https://ndlonline.ndl.go.jp/>

○国立国会図書館リサーチ・ナビにおける「調べ方案内」新規作成・更新

国際子ども図書館が所蔵する資料に関する「調べ方案内」について、コンテンツの新規作成を 2 件、更新を 15 件、削除（同内容ページとの統廃合）を 8 件行った。

※<https://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>

○レファレンス協同データベースへの事例提供

国際子ども図書館が回答したレファレンス事例 55 件を追加した。平成 31 年 3 月末現在、計 654 件を提供している。

※<https://crd.ndl.go.jp/reference/>

○外国語に翻訳刊行された日本の児童書情報

日本の児童書の海外における翻訳出版情報のデータベースを国立国会図書館ホームページ内のリサーチ・ナビにおいて提供している。平成 30 年度は 121 件のデータを追加し、平成 31 年 3 月末現在の収録データは 4,833 件である。

※<https://rnavi.ndl.go.jp/childbook/honyaku.php>

○「国際子ども図書館の蔵書からみる国内の児童図書の出版状況」の公開

国際子ども図書館の蔵書のうち、日本国内で、2016 年に出版された児童図書を国立国会図書館分類表に基づいて分野別に集計した結果（2018 年 8 月 7 日現在）を国際子ども図書館ホームページで公開した。

※<https://www.kodomo.go.jp/info/publication/index.html>

(3) 利用者サービス

○来館利用サービス

児童書研究資料室には、約 4 万冊の児童書及び児童文学に関する参考図書・研究書等を排架している。また、利用者用端末を配備し、各端末から資料検索、書庫資料の閲覧申込み・複写申込書の作成のほか、デジタル化資料等電子情報の閲覧が可能である。平成 30 年度の児童書研究資料室の利用者数は 10,746 名、閲覧点数は 29,281 点、複写申込は 6,016 件であった。

○遠隔サービス

国際子ども図書館所蔵資料の遠隔複写、図書館間貸出し及び蔵書に関する問合せに回答するレファレンスサービスを行っている。レファレンスの回答事例の一部はレファレンス協同データベースで紹介している。平成30年度の遠隔複写申込みは1,034件、図書館間貸出数は267点、文書によるレファレンス回答処理は135件、電話によるレファレンス回答処理は1,063件である。

また、IFLA（国際図書館連盟）の「絵本で世界を知ろうプロジェクト」から寄贈された世界43か国・地域の絵本365冊及び付属資料を、展示会セット「絵本で知る世界の国々—IFLAからのおくりもの」として、国内及びアジア・オセアニア地域の図書館等に貸し出している。平成30年度は国内5機関に貸し出した。

（4）国会サービス及び行政・司法の各部門に対するサービス

○国会サービス

調査及び立法考査局を窓口として、国会議員を始めとする国会関係者に対し、資料の閲覧・貸出し・複写・レファレンス等のサービスを行っている。平成30年度は国会サービスのため所蔵資料130点を出納した。

○行政・司法の各部門に対するサービス

国際子ども図書館では東京本館・関西館と同様に、各府省庁及び最高裁判所に設置されている支部図書館27館に対して、資料の貸出し等を行っている。平成30年度の貸出数は11点である。

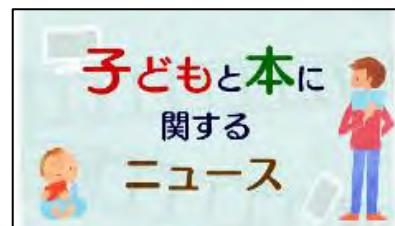
1.2 子どもの読書活動推進支援

（1）子どもの読書に関する情報発信

○「子どもと本に関するニュース」

国際子ども図書館ホームページの「子どもと本に関するニュース」で、国内外の主な児童文学賞、子どもの読書と図書館に関するニュース等を紹介している。平成30年度には国内99件、国外42件、計141件の情報を掲載した。

※<https://www.kodomo.go.jp/info/index.html>



（2）人材育成支援

①国際子ども図書館が行った研修

○平成30年度図書館情報学実習生の受入れ

関西館図書館協力課が公募により選考した、相模女子大学と上田女子短期大学の実習生計2名を9月6日から13日にかけて受け入れ、カウンター業務、選書、装備・排架、レファレンスサービス等の実習を行った。

○児童文学連続講座

11月5日及び6日に児童サービスに従事する図書館員等を対象に、児童文学に関する知識の醸成に資することを目的として児童文学連続講座「絵本と子どもの原点を見つめる—子どもの成長発達と絵本」を実施し、83名が受講、79名が修了した。講義の演題及び講師は次のとおりである（敬称略）。



参加者交流（11/6）の様子

●子どもと文化を架け渡す絵本

石井 光恵（日本女子大学教授、国立国会図書館客員調査員）

●自然と自然史に興味をもつきっかけを作ってくれる絵本

真鍋 真（国立科学博物館標本資料センター長）

●子どもの発達と絵本・読書

秋田 喜代美（東京大学大学院教授）

●絵本を読みあい育ちあう

村中 李衣（ノートルダム清心女子大学教授）

●絵本と子どもをつなぐ国際子ども図書館の実践

福島 清裕（国際子ども図書館児童サービス課主査）

※<https://www.kodomo.go.jp/study/chair/outline/30.html>

○児童サービス研究交流会

平成 31 年 3 月 11 日に児童サービス関係者が一堂に会して事例紹介・意見交換・相互交流できる場を提供することを目的として、「ヤングアダルト世代への図書館サービスの在り方を考える」をテーマに児童サービス研究交流会を実施し、74 名が参加した。内容は次のとおりである（敬称略）。

●報告①「高校の図書館から見たヤングアダルト世代と図書館」

宮崎 健太郎（埼玉県立入間向陽高等学校主任司書）

●報告②「中高生向け「調べもの体験プログラム」について」

永野 祐子（国際子ども図書館児童サービス課主査）

●報告③「大阪市立中央図書館における事例報告」

岩佐 孝司（大阪市立中央図書館利用サービス担当）

●講演「ヤングアダルトを対象とした図書館サービスの新しい視点」

村木 美紀（同志社女子大学学芸学部准教授）

●参加者による交流及び講師コメント

●館内見学

※<https://www.kodomo.go.jp/study/forum2/h30.html>



グループディスカッションの様子

○講師派遣

平成 30 年度に、公共図書館、図書館関係団体等の依頼により、3 件の研究会・研修会等の講師として、延べ 3 名の職員を派遣した。

派遣先：十勝管内公共図書館協議会、福井県立図書館、北海道立図書館

また、平成 30 年 8 月に富山県富山市及び高岡市で開催された第 41 回全国学校図書館研究大会において、国際子ども図書館長が講演を行った。

②他部局・他機関との連携で行った研修等

○国際子ども図書館特別研修「読む喜びを提供するバリアフリー資料の今」

6 月 2 日、読むことに障害のある子どもたちの読書環境整備と読書支援を担う人材育成に資するため、伊藤忠記念財団との共催で、標記特別研修を開催し、114 名が参加した。当館からは、資料情報課職員が「国際子ども図書館の障害者向け資料とサービス」と題する報告を行った。



特別研修の様子

○児童図書館員養成専門講座

日本図書館協会が公共図書館などの専門職員を対象に実施している第 38 回児童図書館員養成専門講座の一部科目について、同協会と共催で開催した。「児童資料 (2) 絵本」(講師：依田和子氏 (よこはまライブラリーフレンド)) を 10 月 1 日に、「児童資料 (4) 日本の児童文学」(講師：宮川健郎氏 (武蔵野大学)) を 10 月 3 日に実施し、17 名が受講した。

(3) 調査研究

○読書・学習支援コンテンツ構築及び利活用に関する調査研究

デジタルコンテンツを用いた子どもの読書・学習支援の検討に資するため、利活用される読書・学習支援コンテンツの在り方についての調査研究を、平成 30 年 9 月から平成 31 年 3 月までの間に外部委託により実施した。外部有識者で構成される研究会を設けて、無償の読書・学習支援コンテンツを提供する機関の事例調査 (ホームページ等調査、アンケート調査及びインタビュー調査)、コンテンツを利用する側である学校や教育委員会のニーズ調査 (インタビュー調査)、海外の学習デジタルコンテンツの状況調査 (文献調査) を行った。調査研究の成果は、令和元年度に「国際子ども図書館調査研究シリーズ」No.4 として刊行するとともに国際子ども図書館ホームページで公開した。

(4) 学校図書館支援

○学校図書館セット貸出し

「国際理解」をテーマとする児童書等約 40 冊を 1 セットとし、全国の学校図書館へ貸し出している。国際子ども図書館ホームページに、全 17 種類の各セットを構成する資料のリストと解題のほか、セットを使った学校図書館活動や学習・読書活動の事例を掲載している。平成 30 年度は 182 校に計 7,602 点の資料を貸し出した。子どもたちが次の利用校に推薦する本を紹介する読書郵便は 46 校に送付した。

※<https://www.kodomo.go.jp/promote/activity/rent/index.html>

1.3 国際的な交流活動

○IFLA 大会への職員派遣

8 月 24 日から 30 日にかけて、クアラルンプール (マレーシア) で開催された国際図書館連盟 (IFLA) 第 84 回年次大会に、国際子ども図書館長及び企画協力課職員 1 名が参加した。国際子ども図書館長は総会、児童・ヤングアダルト図書館分科会等に参加したほか、国立国会図書館長の代理として国立図書館長会議 (CDNL) に出席した。企画協力課職員は児童・ヤングアダルト図書館分科会常任委員として同分科会に参加し、同分科会のプロジェクト等について議論した。



第 84 回国際図書館連盟 (IFLA) 年次大会国立国会図書館訪問団

○IBBY 世界大会への職員派遣

8 月 30 日から 9 月 1 日にかけてアテネ (ギリシャ) で開催された国際児童図書評議会 (IBBY) 第 36 回世界大会に国際子ども図書館長及び児童サービス課職員 1 名が参加し、子どもの本に関する諸外国の状況について情報を収集し、国内外の関係者と交流した。



開会式の様子

○日中韓子ども童話交流 2018

日中韓子ども童話交流事業実行委員会の主催で8月17日から8月23日まで日本で開催された標記事業に対し、国際子ども図書館は後援を行うとともに、8月18日に約170名（うち、日中韓の小学生100名）の見学を受け入れた。参加者は、館内見学の後にアーチ棟1階研修室1に展示された国際子ども図書館所蔵資料を一緒に見るなどして交流した。

○日韓業務交流

10月15日から20日にかけて開催された韓国国立中央図書館との第21回業務交流において、17日に子ども図書館業務交流を行った。「国立図書館が児童サービスの人材育成において果たすべき役割」のテーマの下、国際子ども図書館企画協力課職員が「国際子ども図書館が実施する児童サービス担当司書のための研修事業」と題して報告し、韓国国立中央図書館、韓国子ども青少年図書館職員との懇談を行った。



日韓業務交流の様子

2. 子どもと本のふれあいの場としての活動

子どもたちが図書館や読書に親しむきっかけとなるよう、国内外の児童書を提供するとともに、各種イベントや見学、情報提供等を行った。

2.1 子どもの成長段階に応じた館内サービス

子どものへや・世界を知るへやでは、主に小学生以下を対象とする絵本、読み物、知識の本など約 1 万 2 千冊を開架し、年齢に応じた本の紹介等を行っている。

中高生向けの調べものの部屋では、各種事典や調べものの体験プログラムで利用する資料等を含め、調査やレポート作成に役立つ本を約 1 万冊開架している。

○子どものためのおはなし会

毎週土曜日の午後 2 時（4 歳～小学 1 年生）及び午後 3 時（小学 2 年生以上）から、ストーリーテリングと絵本の読み聞かせ等を実施した（夏休み期間を除く）。平成 30 年度は計 84 回実施し、635 名が参加した。

○ちいさな子どものためのわらべうたと絵本の会

6 か月以上 4 歳未満の子どもと保護者を対象として、8 月を除く毎月第 2 水曜日午前 11 時から実施した。職員が、参加者の年齢に合わせ、絵本の読み聞かせとわらべうたを組み合わせで行っている。平成 30 年度は計 11 回実施し、154 組 311 名が参加した。

○子どものためのおたのしみ会

通常のおはなし会の特別版として、5 月 5 日に、大型絵本の読み聞かせを含む「こどもの日おたのしみ会」を 2 回実施し、計 35 名が参加した。11 月 18 日には、恩賜上野動物園の協力により「秋のおたのしみ会」を実施し、55 名が参加した。「秋のおたのしみ会」は、テーマを「パンダ」とし、国際子ども図書館児童サービス課職員がパンダを題材とした絵本の読み聞かせを行った後、上野動物園の飼育員が写真や動画、パンダのエサなどを見せながら、パンダの生態についてクイズを交えて解説した。



こどもの日おたのしみ会



秋のおたのしみ会

○夏休み読書キャンペーン

夏休みに子どもが様々な本に出会うための企画として、本を読んで問題に答えるクイズを子どものへやで実施し、計 2,013 名の子どもが参加した。クイズの問題は、初級編・中級編・上級編の 3 種類を用意した。

○夏休み親子図書館見学ツアー



レンガ棟についての説明の様子

7 月 26 日、8 月 2 日、9 日、16 日、23 日、30 日の午後 2 時から約 45 分間、小学生とその保護者向けの夏休み親子図書館見学ツアーを行った。書庫を含むレンガ棟及びアーチ棟内の施設を、通常のツアーより平易な表現を用いて案内した。18 歳以上 48 名、18 歳未満 57 名の計 105 名の参加があった。

○夏休み小学生向けおはなし会

7月26日、8月9日、16日、23日、30日の午後3時から、夏休み親子図書館見学ツアー終了後に、おはなし会を実施した。計88名の参加があった。

○幼稚園・保育園・小学校・特別支援学校向けの見学

幼稚園・保育園、小学校、特別支援学校向けに、それぞれのニーズに合わせて、手遊び・わらべうた、おはなし会、館内見学を組み合わせで見学会を行った。平成30年度は、計28件554名の参加があった。

○中高生向けの見学・調べもの体験プログラム

中高生が、短時間で“図書館における調べもの”を体験できる、「調べもの体験プログラム」は「調べものクイズコース」「館内探索スタンプラリーコース」等、計6つのコースで実施した。平成30年度は館内見学17件142名、調べもの体験プログラム21件311名の参加があった。

※<https://www.kodomo.go.jp/use/tour/youth.html>

○中高生向け講演会「図書館で！ネットで！楽しい古典籍—おいしい江戸料理本の世界」

8月2日、人間文化研究機構国文学研究資料館との共催で、中高生向け講演会「図書館で！ネットで！楽しい古典籍—おいしい江戸料理本の世界」を開催した。山本和明氏（同館古典籍共同研究事業センター副センター長・特任教授（当時））による講演と児童サービス課職員によるブックトークを行い、67名（うち、中高生19名）の参加があった。また、7月24日から8月9日まで、調べものの部屋で、講演会のテーマに合わせた展示を行い、計580名の入場があった。



講演会の様子

2.2 子どものための連携イベント

上野公園地区に所在する近隣文化機関との連携により、読書に親しむきっかけとなるよう、子ども向けのイベントを実施した。

○子どものための音楽会

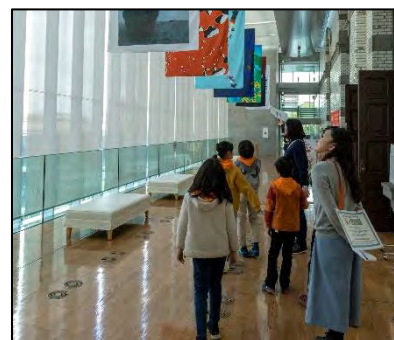
10月28日、東京都歴史文化財団東京文化会館との共催で、「Music Program TOKYO まちなかコンサート～芸術の秋、音楽さんぽ～」の一環として行った。午後1時及び午後3時から40分ずつ開催し、18歳以上237名、18歳未満117名の計354名が参加した。子どもが親しみやすい曲を選んで木管五重奏の演奏を行った。演奏終了後、国際子ども図書館児童サービス課職員が楽器や曲目に関連する本の紹介を行った。



音楽会の様子

○うえの！ふしぎ発見 けんちく部歴史てくてく編

11月24日、東京都、東京都歴史文化財団東京都美術館、同アーツカウンシル東京及び東京藝術大学との共催により、平成30年度「Museum Start あいうえのプロジェクト」の一環として、標記ワークショップを開催した。テーマは「100年前の上野公園」であり、国際子ども図書館企画協力課職員が帝国図書館時代の写真、100年前の子どもの様子を描いた絵本、国立国会図書館デジタルコレクションに収録された歴史的音源の童謡「かなりや」等を紹介した後、子どもたちはグループに分かれて東京都美術館のアート・コミュニケータとともにレンガ棟内を探検し、国際子ども図書館の建物についての理解を深めた。小学校3年生から6年生までの子どもと保護者17組35名の参加があった。



国際子ども図書館探検の様子

○子どものための絵本と音楽の会『おんがくかいのよる』

平成 31 年 3 月 24 日、東京・春・音楽祭実行委員会との共催により行った。絵本『おんがくかいのよる :5 ひきのすてきなねずみ』の朗読に合わせて、サクソフォンとピアノの演奏が行われた。午後 1 時 30 分及び午後 3 時から 30 分ずつ行い、18 歳以上 87 名、18 歳未満 77 名の計 164 名が参加した。



演奏の様子

2.3 子ども向けの情報発信

「国立国会図書館キッズページ」の「よんでみる？」のコーナーにコンテンツを 10 件追加した。

※<https://www.kodomo.go.jp/kids/index.html>

3. 子どもの本のミュージアムとしての活動



児童書の持つ魅力を広く一般に紹介することを目的に、児童書に関する展示会を開催している。国際子ども図書館が主催する企画展示のほか、日本国際児童図書評議会（JBBY）など他機関から資料を借用して実施する巡回展示、共催による展示などがある。平成 30 年度は、展示会「オランダの金の筆と銀の筆—子どもの本の世界」、「世界のバリアフリー児童図書展—IBBY 選定バリアフリー児童図書 2017」、「『赤い鳥』創刊 100 年—誌面を彩った作品と作家たち」、「子どもを健やかに育てる本 2018—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財（出版物）」、「詩と伝説の国—イランの子どもの本」をレンガ棟 3 階本のミュージアムにおいて開催した。このほか、子どものへや等の各資料室において、様々なテーマの下に小展示を行った。

3.1 館内展示

○オランダの金の筆と銀の筆—子どもの本の世界

レンガ棟 3 階本のミュージアムにおいて、3 月 6 日から 7 月 15 日まで計 107 日開催し、入場者数は 27,116 名であった。日本とオランダの国交樹立 160 周年を記念して、当館が所蔵する児童書の中から、オランダの歴史ある児童文学賞である金の石筆賞・銀の石筆賞、金の絵筆賞・銀の絵筆賞の受賞作品等のオランダ語資料のほか、その翻訳書等の約 500 点を展示した。また、国際子ども図書館職員によるギャラリートークを計 19 回開催し、参加者は 330 名であった。前期の 4 月 26 日には、秋篠宮妃殿下及び眞子内親王殿下の御来臨を賜った。

○世界のバリアフリー児童図書展—IBBY 選定バリアフリー児童図書 2017

レンガ棟 3 階本のミュージアムにおいて、8 月 7 日から 26 日まで計 16 日開催し、入場者数は 4,886 名であった。資料は国際児童図書評議会（IBBY）の日本支部である日本国際児童図書評議会（JBBY）から借用し、障害のある子どもたちも楽しむことができるように作成されたバリアフリー図書の中から、IBBY 障害児図書資料センターが 2017 年に選定した世界 21 か国の 50 作品を手につ



展示会場の様子

て見られるよう展示した。会期の第一週目の8月8日には、秋篠宮妃殿下の御来臨を賜った。

○『赤い鳥』創刊100年—誌面を彩った作品と作家たち

レンガ棟3階本のミュージアムにおいて、9月9日から平成31年1月20日まで計99日開催し、入場者数は24,268人であった。児童文芸雑誌『赤い鳥』の創刊100年を記念し、『赤い鳥』に携わった作家・詩人の作品等、約450点を展示した。また、国際子ども図書館職員によるギャラリートークを計14回開催し、参加者は233名であった。



展示会場の様子

○子どもを健やかに育てる本 2018—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財（出版物）

レンガ棟3階本のミュージアムにおいて、平成31年1月29日から2月17日まで計18日開催し、入場者数は3,782名であった。厚生労働省との共催で、平成29年度に厚生労働省社会保障審議会が推薦した図書32作品を手にとって見られるよう展示した。



展示会場の様子

○詩と伝説の国—イランの子どもの本

レンガ棟3階本のミュージアムにおいて、平成31年3月5日から開始した。日本とイランの外交関係樹立90周年を記念して、国際子ども図書館が所蔵するイランの児童書の中から、イランの詩や伝説・昔話を題材とした絵本のほか、近年活躍しているイランの画家や作家の作品を中心に展示した。



国際子ども図書館レンガ棟3階ラウンジの撮影スポットの様子

○児童書研究資料室の小展示

児童書研究資料室では、利用者の興味・関心を深める一助とするため、レンガ棟3階本のミュージアムにおける当館開催展示会に関連した小展示を3回実施した。また、2018年の国際アンデルセン賞作家賞・画家賞の受賞者作品の小展示を1回、海外の児童文学賞受賞作品をテーマとした小展示を3回実施した。加えて、平成29年に日本国内の主要な児童文学賞を受賞した作品及び読書活動推進に関する児童サービスの基本資料を通年で展示した。



小展示「2018年国際アンデルセン賞作家賞・画家賞の受賞者による作品」

○児童書ギャラリーの小展示

児童書ギャラリーでは、明治から現代までの児童文学史と絵本史の流れに一層親しむことを目的に、特定の作家や画家等に関する小展示を「作家・画家コーナー」で行っている。平成30年度は「創刊100年の『赤い鳥』」（前半）と「宮沢賢治」（後半）を紹介した。

○子どものへや・世界を知るへやの小展示

子どものへやでは季節や子どもの興味を引くテーマで小展示を行い、子どもたちが何度訪れても楽しめる工夫をしている。平成30年度は7回行った。世界を知るへやでは「IFLA 絵本で世界を知ろうプロジェクト」など4種類の小展示を常設している。

○調べものの部屋の小展示

調べものの部屋では、2か月毎にテーマを決め、入口のスタンドを利用して10冊程度の本を紹介するウェルカム展示を7回行った。また、近隣の施設で行われている展覧会に合わせたテーマに関連小展示を行った。



子どものへや小展示「リンゴの本」

4. 国内外の諸機関との連携・協力、広報活動等

国際子ども図書館は、国内外の図書館や児童書等の関係機関又は団体と密接に協力しながら、主に「子どもに本を手渡す大人」への支援を通じて、子どもの読書活動を推進している。平成30年度は各種団体との連携により、日本の作家、翻訳家、児童文学研究者、国際児童図書評議会会長、スペインの画家、中国の児童文学者、中国の児童図書館長等を当館に招き、講演会を実施した。加えて、密接な連携を推進するため、国際子ども図書館職員と関係機関との懇談・交流の場を設け意見交換・情報共有を行った。

4.1 講演会

○講演会「私が子ども時代に出会った本―沖方丁」

4月15日、日本ペンクラブとの共催により作家の沖方丁氏の講演会を開催した。講師は、幼少時の海外在住中、周囲に日本語の本が少ない中で、日本語・日本文化への渴望から、英和・和英辞典や断片的に入手した日本語の漫画を熟読し、言葉や物語に対する連想力や想像力を育んだという自らの体験を踏まえ、「何もない」ことが逆に豊かな創造性の発揮をもたらし、それを支えたのが読書であったことなどを語った。参加者は72名であった。

○上野の森親子ブックフェスタ講演会「『赤い鳥』を学ぶ」

（朗読：すとうあさえ氏・山本省三氏、講演：関口安義氏、遠山光嗣氏）

5月5日、「上野の森親子ブックフェスタ」運営委員会との共催により、上野の森親子ブックフェスタ2018の一環として行った。日本児童文芸家協会のすとうあさえ氏及び山本省三氏による『赤い鳥』掲載の童謡詩の朗読の後、都留文科大学名誉教授の関口安義氏が、芥川龍之介と編集者鈴木三重吉との関係や『赤い鳥』創刊号に寄稿された「蜘蛛の糸」を始めとする芥川龍之介の児童文学作品等について紹介した。また、新美南吉記念館学芸員の遠山光嗣氏は、新美南吉と『赤い鳥』との関わりや「ごんぎつね」原稿の鈴木三重吉による添削について紹介した。参加者は121名であった。



朗読の様子

○すべては思索から―ワリー・デ・ドンケル国際児童図書評議会会長講演会

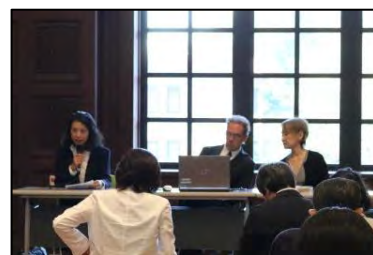
5月26日、ワリー・デ・ドンケル国際児童図書評議会（IBBY）会長（当時）による「すべては思索から―ワリー・デ・ドンケル国際児童図書評議会会長講演会」を開催した。講演会では、まず通訳を担当した野坂悦子氏がベルギーのフランドル地域における子どもの本の歴史と現状について解説し、続いて日本文学のファンであるというデ・ドンケル氏が日本の絵本を孫たちに読み聞かせた経験等を紹介した後、自身の幼い頃の読書体験や小学校教師時代の経験等を踏まえ、自らの創作やIBBY会長としての活動について語った。参加者は67名であった。



講演会の様子

○講演会「ホセ・マリア・シシリア 想起に導かれて、東北の子供達とともに」

9月28日、上野文化の杜新構想実行委員会との共催により、講演会を開催し、スペインの画家ホセ・マリア・シシリア氏による東日本大震災被災地での活動等についての講演のほか、企画協力課職員による東日本大震災関連絵本の紹介、国立国会図書館電子情報部職員による「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ」の紹介を行った。参加者は46名であった。



講演会の様子

○展示会関連講演会『『赤い鳥』童謡と音楽』

10月21日、展示会『『赤い鳥』創刊100年—誌面を彩った作品と作家たち』関連イベントとして、大東文化大学社会学部専任講師である周東美材氏の講演会『『赤い鳥』童謡と音楽』を開催した。講師は、『赤い鳥』を創刊した鈴木三重吉のプロデューサー的側面や、レコード産業の発展に童謡が果たした役割等にも触れつつ、童謡が100年にわたって歌い継がれてきた理由について、メディア論やポピュラー音楽史の観点から語った。77名の参加があった。



講演会の様子

○講演会「中国の児童文学者 曹文軒—私の人生、私の文学」

平成31年1月20日、中国を代表する児童文学者であり、2016年国際アンデルセン賞作家賞を受賞した曹文軒氏を招き、講演会「中国の児童文学者 曹文軒—私の人生、私の文学」を開催した。曹文軒氏の講演に先立ち、大阪教育大学教授の成實朋子氏が現代中国児童文学の流れと曹文軒氏の作品世界を紹介する講演を行った。曹文軒氏は、自身の人生と作品を水になぞらえて語るとともに、自らの文学観について述べた。参加者は121名であった。



講演会の様子

○いま、フィンランドの子どもの本は？

平成31年2月9日、日本ペンクラブとの共催により、講演会「シリーズ・いま、世界の子どもの本は？」の第11回として、末延弘子氏（フィンランド文学翻訳家）を講師に迎え、「いま、フィンランドの子どもの本は？」を開催した。末延氏はフィンランド語やフィンランド文学の特徴を解説した後、日本でよく知られているトーベ・ヤンソンの「ムーミン」など現代の児童文学作品について、フィンランドの国民的叙事詩『カレワラ』との関わり、自然に対する考え方、死生観などの観点から、物語の朗読を交えつつ紹介した。参加者は85名であった。



講演会の様子

○講演会「中国の子どもの読書と図書館の現在」

平成31年3月25日、中国の上海少年児童図書館長である盧秋勤氏を招き、「中国の子どもの読書と図書館の現在」と題する講演会を開催した。講演会では、大阪成蹊短期大学准教授の浅野法子氏が中国における子どもの読書推進について講演した後、盧秋勤氏が上海少年児童図書館のサービスや、先進的な技術を利用した活動について紹介した。参加者は64名であった。

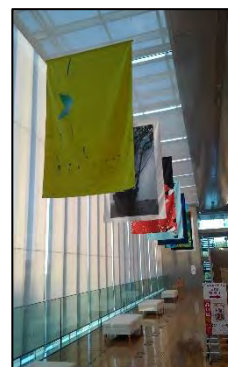


講演会の様子

4.2 展覧会

○展覧会：想起の力で未来を ホセ・マリア・シシリア「アクシデントという名の国」

9月20日から平成31年2月24日まで、上野文化の杜新構想実行委員会との共催により、レンガ棟3階ラウンジ及びホールにて、東日本大震災をテーマにしたスペインの画家ホセ・マリア・シシリア氏の布作品等の展覧会を開催した。会場には、国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）や児童書ギャラリーで展示中の東日本大震災関連絵本のパネルも展示した。



展覧会の様子

4.3 広報活動

○上野地区文化施設共通入場券事業への参加

上野文化の杜新構想実行委員会が主催する上野地区文化施設共通入場券事業に、前期（4月1日～9月30日）、後期（10月1日～平成31年3月31日）ともに参加した。スタンプラリーにも参加し、記念品のポストカードを714人に配布した。

○教員のための博物館の日 2018

7月27日、国立科学博物館で行われた教員のための博物館の日2018に、ブースを出展し、学校教員や学校司書等43名に対して、学校図書館セット貸出しなど国際子ども図書館の事業や活動を説明、紹介パンフレット等を配布した。



ブース展示の様子

○図書館総合展出展

10月30日～11月1日にパシフィコ横浜で行われた第20回図書館総合展において、来場者に紹介パンフレット202部を配布し、業務概要を説明した。

4.4 関係者会議

○平成30年度子どもの本と読書に関する懇談会

平成31年2月25日に、「平成30年度子どもの本と読書に関する懇談会」を開催した。これは、平成27年度のアーチ棟竣工とリニューアル後のサービス開始を機に、従来の国際子ども図書館連絡会議の在り方を見直し、名称も変更した上で平成29年度から開催しているものである。以降、参加団体の関心の高いテーマを設定し、子どもの本と読書に関する最新動向の報告や意見交換を行うことを目的として毎年度開催している。

平成30年度のテーマは「子どもの本離れに対する課題と取組」とした。冒頭、当館から活動報告を行った後、テーマに基づき、大阪国際児童文学振興財団、東京都立多摩図書館及び文部科学省総合教育政策局が報告、意見交換と懇談を行った。外部機関・団体の参加者は14機関・団体19名であった。従来の参加機関・団体のうち1団体が活動終了に伴い不参加となり、新たに一般社団法人日本ペンクラブが加わった。

4.5 見学・案内

○議会関係者向けの案内

平成30年度は、国会議員4件4名（うち2件に随行者等計13名）、地方自治体・地方議会関係者7件80名の案内を行った。

○一般向けの案内

個人向けのガイドツアーを毎週火・木曜日に行っているほか、団体向けの見学を行っている。平成30年度は、個人向け90件555名、団体向け80件1,458名の参加があった。

○図書館向けの案内

図書館職員や小中学校の学校図書館司書等、図書館関係者向けの見学案内を行っている。平成30年度は、計13回実施し、181名の参加があった。

○外国人向けの案内

外国公館関係者、海外の図書館関係者等を含む、外国人向けの見学案内については、平成30年度に計25回実施し、114名の参加があった。

○子ども向けの案内

2.1(10ページ)参照

4.6 刊行物

平成 30 年度は、次のものを刊行した。

○『国際子ども図書館の窓』第 18 号（2018 年 10 月 31 日）

※http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11177743_po_2018-mado.pdf?contentNo=1&alternativeNo

○国際子ども図書館メールマガジン 143～162 号（2018 年 4 月～2019 年 3 月）

※<https://www.kodomo.go.jp/about/mailmagazine/2018/index.html>

○児童文学連続講座講義録（2018 年 9 月 15 日）

『平成 29 年度児童文学連続講座講義録「絵本はアート、絵本はメディア」』

※http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11160963_po_H29-full.pdf?contentNo=1&alternativeNo

平成 30 年 4 月から平成 31 年 3 月までの主なできごと

平成 30 年

-
- 4 月 15 日 講演会「私が子ども時代に出会った本一冲方丁」
 - 4 月 26 日 秋篠宮妃殿下及び眞子内親王殿下の展示会御鑑賞
 - 5 月 5 日 上野の森親子ブックフェスタ講演会『『赤い鳥』を学ぶ』（朗読：すとうあさえ氏・山本省三氏、講演：関口安義氏、遠山光嗣氏）
こどもの日おたのしみ会
 - 5 月 26 日 すべては思索から一ワリー・デ・ドンケル国際児童図書評議会会長講演会
 - 6 月 2 日 国際子ども図書館特別研修「読む喜びを提供するバリアフリー資料の今」
 - 7 月 20 日 夏休み読書キャンペーン 2018（～9 月 2 日）
 - 7 月 26 日 夏休み小学生向けおはなし会（8 月 9 日、16 日、23 日、30 日とも）
夏休み親子図書館見学ツアー（8 月 2 日、9 日、16 日、23 日、30 日とも）
 - 7 月 27 日 「教員のための博物館の日 2018」に参加
 - 8 月 2 日 中高生向け講演会「図書館で！ネットで！楽しい古典籍—おいしい江戸料理本の世界」（山本和明氏）
 - 8 月 7 日 展示会「世界のバリアフリー児童図書展—IBBY 選定バリアフリー児童図書 2017」（～26 日）
 - 8 月 8 日 秋篠宮妃殿下の展示会御鑑賞
 - 8 月 18 日 日中韓子ども童話交流
 - 9 月 9 日 展示会『『赤い鳥』創刊 100 年—誌面を彩った作品と作家たち』（～平成 31 年 1 月 20 日）
 - 9 月 15 日 平成 29 年度児童文学連続講座講義録刊行
 - 9 月 20 日 展覧会：想起の力で未来を ホセ・マリア・シシリア「アクシデントという名の国」（～平成 31 年 2 月 24 日）
 - 9 月 28 日 講演会「ホセ・マリア・シシリア 想起に導かれて、東北の子供達とともに」
 - 10 月 1 日 JLA 児童図書館員養成専門講座（3 日とも）
 - 10 月 21 日 講演会『『赤い鳥』童謡と音楽』（周東美材氏）
 - 10 月 28 日 子どものための音楽会
 - 10 月 30 日 第 20 回図書館総合展に出展（～11 月 1 日）
 - 10 月 31 日 『国際子ども図書館の窓』第 18 号刊行
 - 11 月 5 日 国際子ども図書館児童文学連続講座「絵本と子どもの原点を見つめる—子どもの成長発達と絵本」（～6 日）
 - 11 月 18 日 子どものための秋のおたのしみ会 「パンダの絵本の読み聞かせとパンダの飼育員さんのおはなし」
 - 11 月 24 日 Museum Start あいうえの「うえの！ふしぎ発見 けんちく部歴史てくてく編」
 - 12 月 18 日 国際子ども図書館ホームページで「国際子ども図書館の蔵書からみる国内の児童図書の出版状況」のページを公開

平成 31 年

-
- 1 月 20 日 講演会「中国の児童文学者 曹文軒—私の人生、私の文学」（曹文軒氏、成實朋子氏）
 - 1 月 29 日 展示会「子どもを健やかに育てる本 2018—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財（出版物）」（～2 月 17 日）
 - 2 月 8 日 満 18 歳未満の視覚障害者等による利用者登録申請の受付開始
 - 2 月 9 日 講演会「いま、フィンランドの子どもの本は？」（末延弘子氏）
 - 2 月 25 日 子どもの本と読書に関する懇談会
 - 3 月 5 日 展示会「詩と伝説の国—イランの子どもの本」（～7 月 21 日）
 - 3 月 11 日 児童サービス研究交流会「ヤングアダルト世代への図書館サービスの在り方を考える」
 - 3 月 24 日 子どものための絵本と音楽の会『おんがくかいのよる』
 - 3 月 25 日 講演会「中国の子どもの読書と図書館の現在」（盧秋勤氏、浅野法子氏）
 - 3 月 26 日 公衆無線 LAN サービスの提供開始

数字で見る国際子ども図書館

平成 30 年度（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

（１）国際子ども図書館所蔵統計（平成 31 年 3 月 31 日現在）

資料区分			所蔵数
資料 情報課	図書 （単位：点）	日本語（*1）	307,046
		外国語（*2）	114,689
		中国語・朝鮮語資料	29,009
		アジア言語資料 （中国語・朝鮮語資料以外）	10,438
		欧米言語資料	75,230
	計		421,735
	逐次刊行物 （単位：タイトル、 カッコ内は点）	国内雑誌	1,798 (96,869)
		外国雑誌	191 (10,675)
		計	1,989
	非図書資料 （単位：点）	マイクロ資料 （マイクロフィルム、マイクロフィッシュ等）	38,000
		映像資料（ビデオディスク、ビデオカセット等）	9,330
		録音資料（オーディオディスク、カセットテープ等） （*3）	3,499
		機械可読資料（光ディスク等）	6,910
		楽譜資料	312
		カード式資料（カルタ等）	11,426
		静止画資料（紙芝居等）	21,311
		点字・大活字資料	3,711
	計		94,499
	開架閲覧用資料（単位：点）（*4）		19,243
	児童書ギャラリー		2,029
	貸出用資料（単位：点）		365
児童 サービス課	開架閲覧用資料（単位：点）		29,607
	子どものへや・世界を知るへや		17,353
	調べものの部屋		12,254
	貸出用資料（単位：点）		5,251

*1 児童書関連書（2006 年 9 月以前選書分 12,342 点）を含む。

*2 児童書関連書（5,812 点）を含む。言語別の所蔵数の計は業務基盤システムによる採取のため、外国語の所蔵数と一致しない場合がある。

*3 教師用指導書のみである。

*4 日本語の児童書関連書（2006 年 10 月以降選書分）及び児童関連誌並びに児童書ギャラリー用資料の合計点数である。

(2) 来館者統計

開館日（日）	285
来館者（人）	143,241
（うち 18 歳未満）	(30,285)

(4) 資料出納統計

国会サービス（点）	130
児童書研究資料室（点）	29,281

(3) 各室利用統計

児童書研究資料室	開室日（日）	285
	利用者（人）	10,746
子どものへや・ 世界を知るへや	開室日（日）	285
	利用者（人）	102,622
児童書ギャラリー	開室日（日）	285
	利用者（人）	41,582
調べものの部屋	開室日（日）	285
	利用者（人）	48,268

(5) 複写サービス統計

(対象：国会サービス)

紙	件	1
	枚	2
プリント アウト	件	0
	枚	0
マイクロ	件	0
	フィルム（コマ）	0
	フィッシュ（枚）	0

(対象：一般)

紙	件	6,007
	枚	34,804
プリント アウト	件	1,043
	枚	32,745
マイクロ	件	0
	フィルム（コマ）	0
	フィッシュ（枚）	0

(6) 資料貸出統計

(対象：行政・司法各部門)

相互貸出し（点）	11
----------	----

(対象：一般)

図書館間貸出し	点	267
学校図書館セット貸出し	件	182
	点	7,602
展示会出品資料貸出し	件	7
	点	1,831

(7) レファレンスサービス統計①

(対象：一般)

文書回答	処理文書（通）	79
	処理（件）	135
電話回答	受理（件）	821
	（うち 18 歳未満）	(1)
	処理（件）	1,063
	（うち 18 歳未満）	(1)
口頭回答	受理（件）	15,211
	（うち 18 歳未満）	(1,823)
	処理（件）	17,173
	（うち 18 歳未満）	(2,031)

(7) レファレンスサービス統計②

(対象：国会サービス)

文書回答	処理文書（通）	0
	処理（件）	0
電話回答	受理（件）	0
	処理（件）	0
口頭回答	受理（件）	0
	処理（件）	0
調査局経由*	処理（件）	2

*調査及び立法審査局で受付後、回付されたものである。

(対象：行政・司法各部門)

文書回答	処理文書（通）	0
	処理（件）	0
電話回答	受理（件）	0
	処理（件）	0
口頭回答	受理（件）	0
	処理（件）	0

(8) 参観・見学統計*

国会議員、前・元議員		件	4
		人	4
その他の国会関係者		件	0
		人	1
行政・司法		件	0
		人	12
国内	個人	件	90
		人	555
		（うち 18 歳未満）	(37)
	団体	件	80
		人	1,458
		（うち 18 歳未満）	(711)
	図書館関係者	件	13
		人	181
		（うち 18 歳未満）	(0)
	地方自治体・地方議会関係者	件	7
		人	80
		（うち 18 歳未満）	(0)
海外（外国公館関係者を含む）		件	25
		人	114
		（うち 18 歳未満）	(0)

*件数は、参加者に複数の種別が混在する場合、主たる種別のみ「1 件」とし、他の種別については「0 件」とする。

(9) 国際子ども図書館ホームページアクセス統計

http://www.kodomo.go.jp/以下の全コンテンツ	ページビュー（件）	2,196,791
トップページ	トップページへのアクセス（件）	312,435

国際子ども図書館利用案内

国際子ども図書館ホームページ <https://www.kodomo.go.jp/>

電話 03 (3827) 2053 (代表) 03 (3827) 2069 (音声による利用案内)

★来館利用 ホームページ > 利用案内

問合せ先 : 企画協力課

開館時間 : 9:30～17:00 資料請求 : 9:30～16:30 (児童書研究資料室)

複写受付 : 10:00～16:00 (後日郵送複写のみ 16:30 まで) 複写製品引渡し : 10:30～12:00、13:00～16:30

休館日 : 月曜日、国民の祝日・休日 (こどもの日は開館)、年末年始、毎月第 3 水曜日

所蔵資料 : 国内刊行児童図書・雑誌、外国語の児童図書・雑誌、児童書関連図書・雑誌等

※資料の利用は館内のみ。館外への帯出はできません。

★レファレンス・資料案内 ホームページ > 本・資料を探す > レファレンス・サービス

問合せ先 : 資料情報課情報サービス係

申込方法 : 来館、文書 (図書館経由)、電話

※児童書・児童文学、児童図書館活動等に関する問合せにお答えします。

※資料を直接確認しなければならないなど時間を要する調査及び聞き間違いが生じやすい外国語文献についてのレファレンスなどは文書でお申込みください。

★資料の複写 (有料) ホームページ > 利用案内 > 複写サービス

問合せ先 : 資料情報課情報サービス係

申込方法 : 来館、国立国会図書館オンライン経由 (登録利用者・機関のみ)

郵送 (登録利用者・機関のみ)

★資料の図書館間貸出し ホームページ > 利用案内 > 図書館間貸出し

問合せ先 : 資料情報課情報サービス係

※「図書館間貸出制度」に加入している図書館のみ利用できます。

※雑誌や昭和 25 年以前刊行の図書など貸出しができない資料もあります。

★見学・体験 (調べもの体験プログラム) ホームページ > 利用案内 > 見学・体験

問合せ先 : 企画協力課広報係 (一般向け)

児童サービス課 (幼稚園・保育園・小学生向け・中高生向け)

★学校図書館セット貸出し ホームページ > 子どもの読書活動推進 >

国際子ども図書館における実践 > 学校・学校図書館へのサービス > 学校図書館セット貸出し

問合せ先 : 児童サービス課児童サービス企画係

国際子ども図書館の窓 第 19 号 2019.9

2019 年 9 月 30 日発行

発行 国立国会図書館

編集 国立国会図書館国際子ども図書館

〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-49

電 話 03 (3827) 2053 (代表) FAX 03 (3827) 2043

本誌に掲載された記事を全文又は長文にわたり抜粋して転載される場合には、
事前に国際子ども図書館企画協力課広報係までご連絡ください。

The Window
the journal of the International Library of Children's Literature
No.019 September 2019

Contents

【ILCL activity report】	4
【List of events and activities; April 2018 - March 2019】	18
【ILCL in figures】	19
【ILCL user guide】	22

International Library of Children's Literature,
National Diet Library,
Tokyo